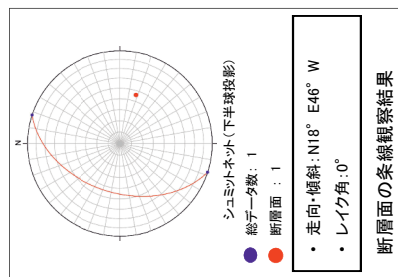
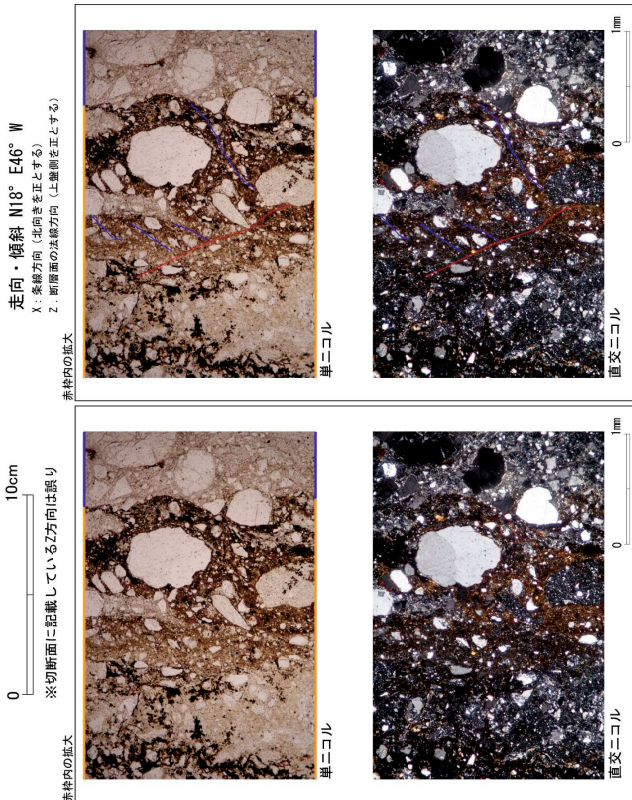
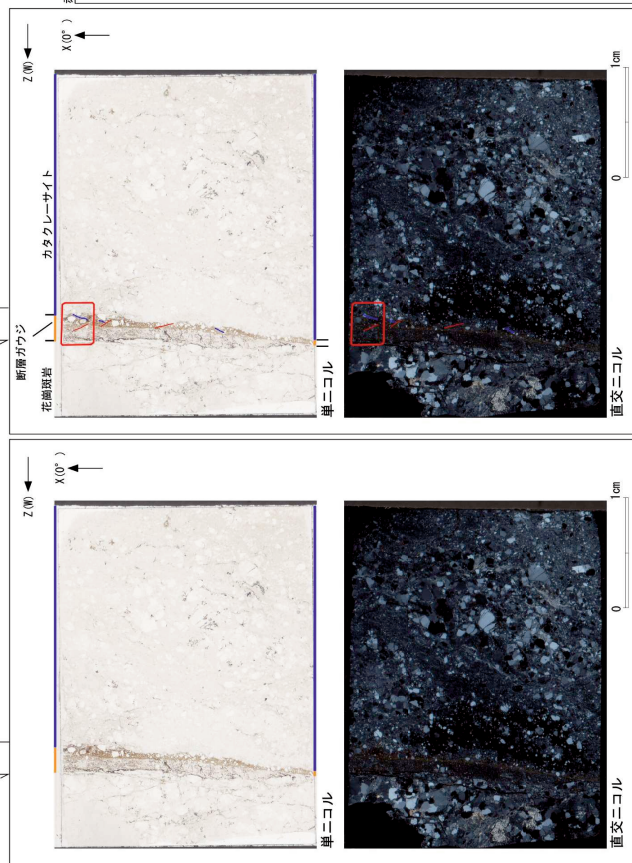
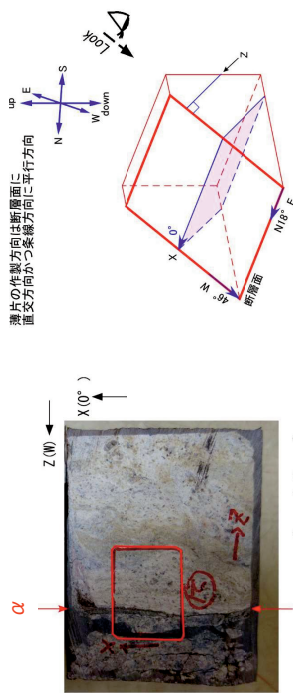


- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面

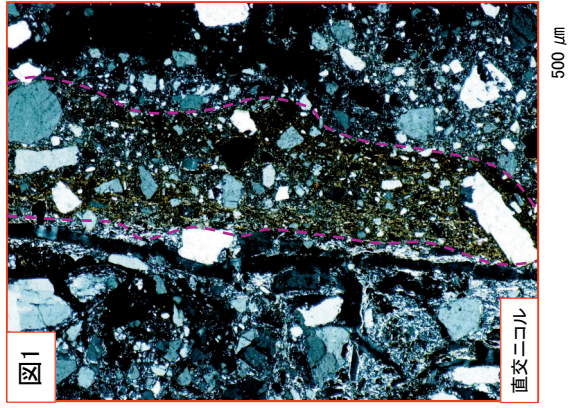
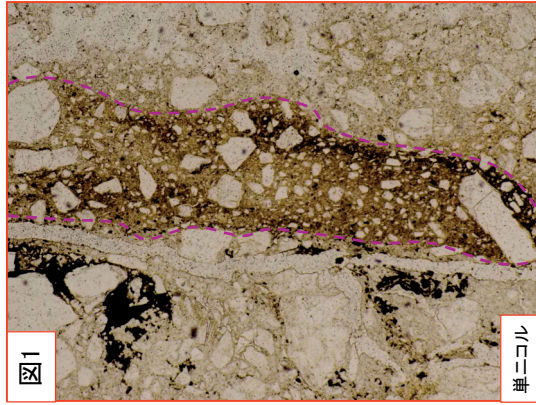
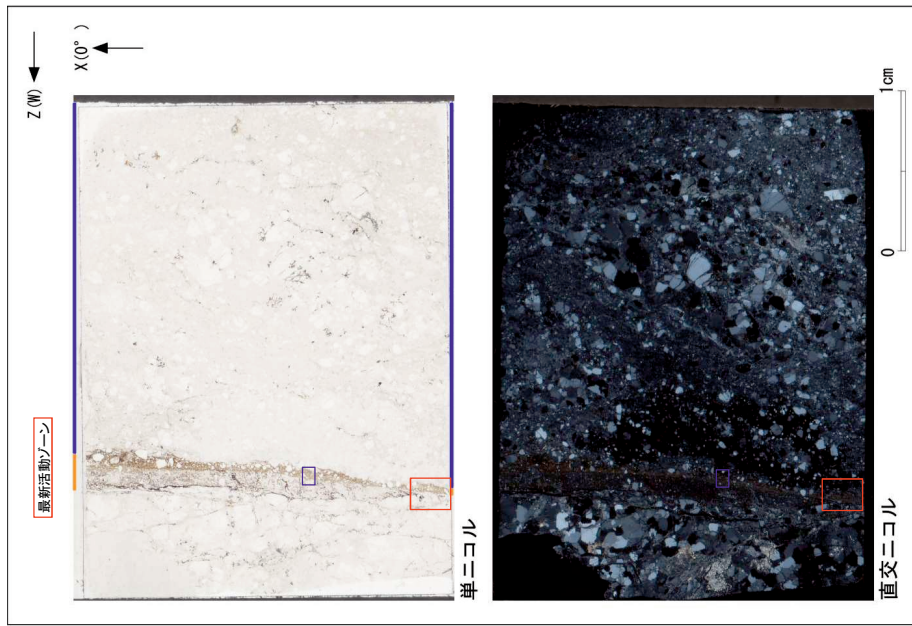


断層面の条線観察結果

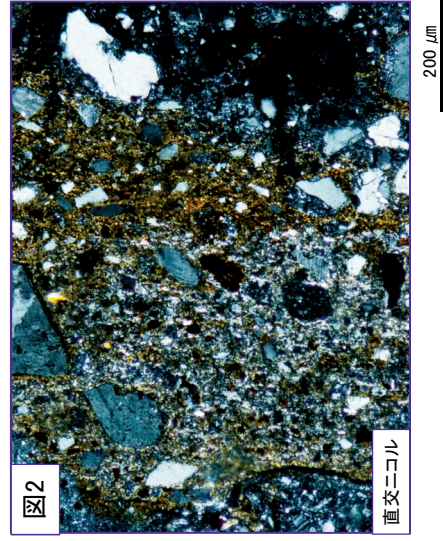
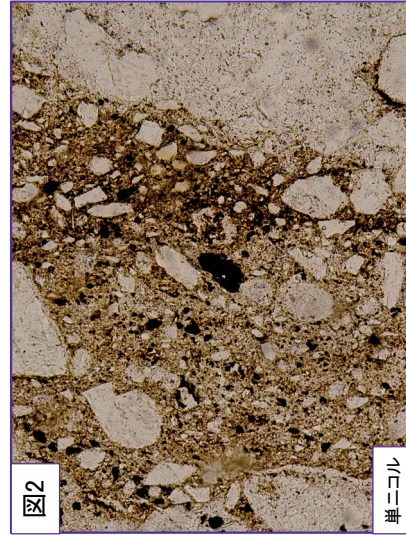


第7.4.4.28I図 (3) 破碎部性状 H27-B-2 深度34.37~34.48m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



第7.4.4.28I図 (4)

破碎部性状 H27-B-2 深度34.37~34.48m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度34.37m)

- 肉眼観察では、「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 角ばった岩片が多い。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサーサイトの特徴は、カタクレーサーサイトに断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
有	0.6	無

* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度35.36～35.39mの「粘土混じり岩片状～粘土質岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

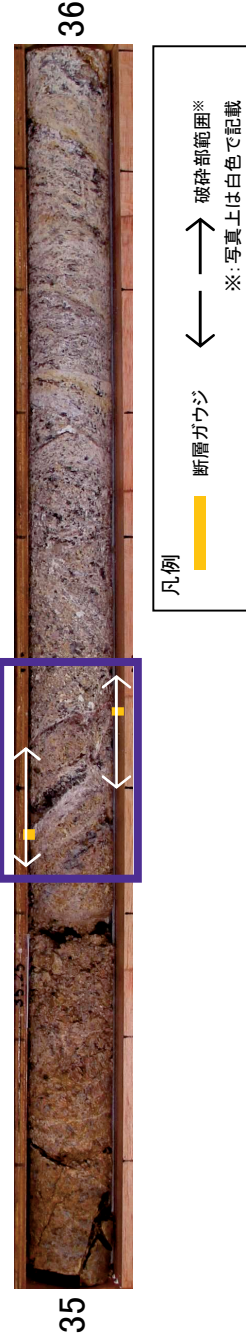
・深度35.39～35.40mの「粘土状」と記載の箇所については、変質を受けており、細粒部の境界が一部不明瞭となっているが、軟質で、細粒部の連続性及び直線性は良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

・深度35.40～35.46mの「粘土混じり～粘土質岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

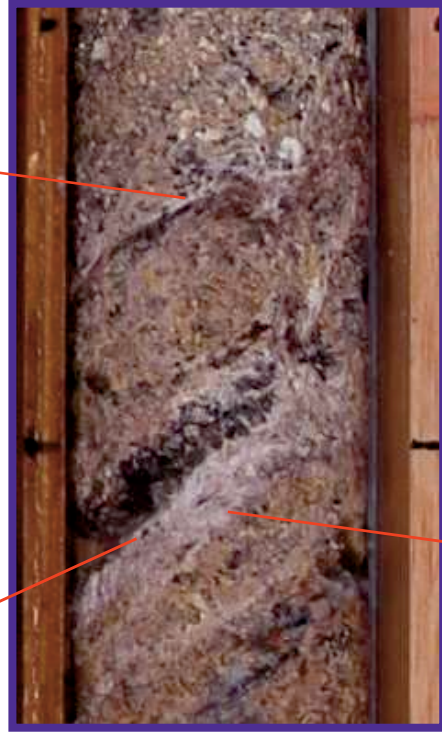
ボーリング柱状図

- 35.36～35.46m：破砕部
35.36～35.39m：粘土混じり岩片状～粘土質岩片状部 (Hj)
上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。径2～5mmの石英粒、径3～5mmの粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化が進むため構造は不明瞭。灰黄色を呈する。幅25mm。
- 35.39～35.40m：粘土状部 (Hc-1)
傾斜47°で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭。径1～3mの石英粒を10%含む。軟質。灰白～灰褐色を呈する。幅12～15mm。
- 35.40～35.46m：粘土混じり～粘土質岩片状部 (Hj)
上端47°で直線的に、下端20～35°で湾曲して連続。径2～3mmの石英粒、径5mmの粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガニル染も伴う。灰黄～褐色を呈する。幅40～45mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



青枠部拡大

細粒部が網目状に分布する

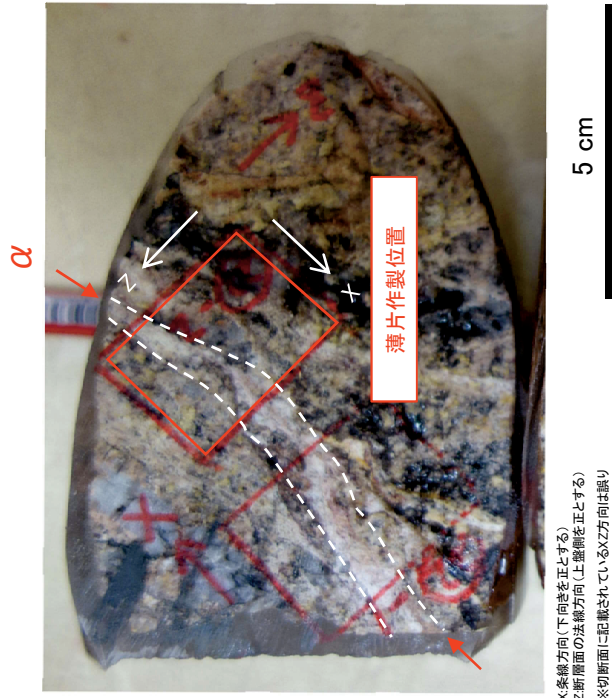
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

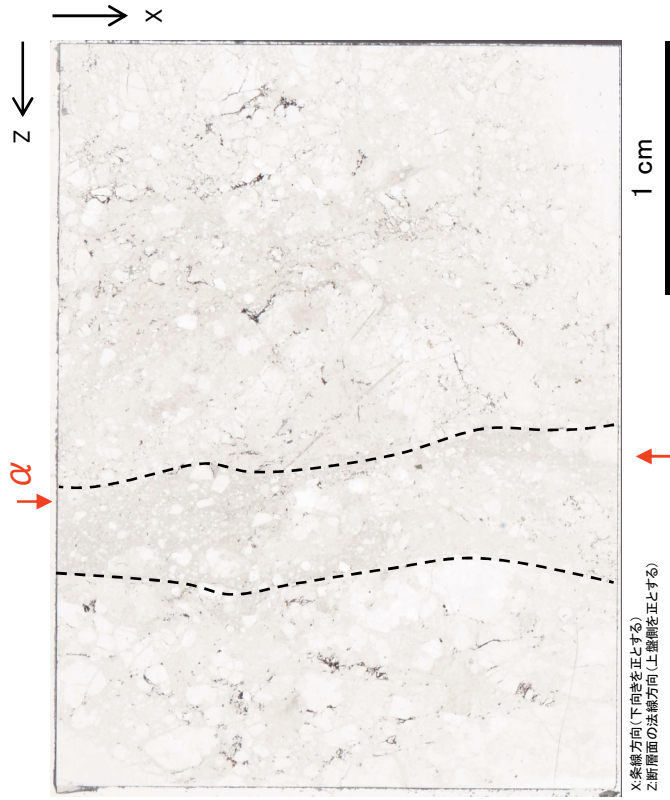
※断層面 α は最新活動面



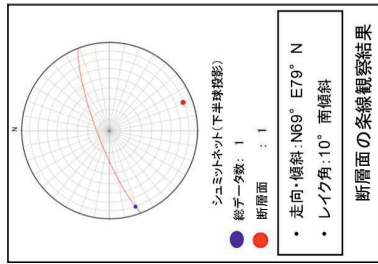
薄片作製位置写真



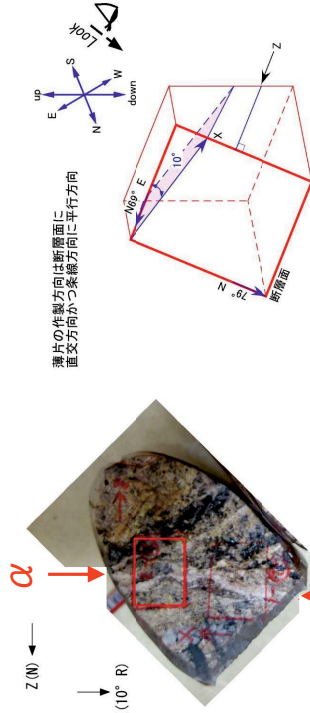
薄片全景写真(単ニコル)



- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトののみからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



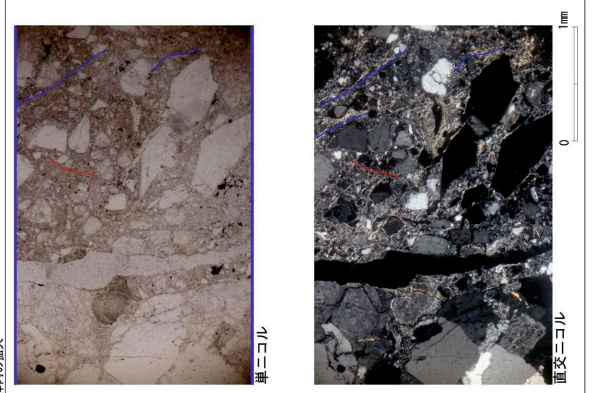
※断層面 α は最新活動面



走向・傾斜 N69° E79° N

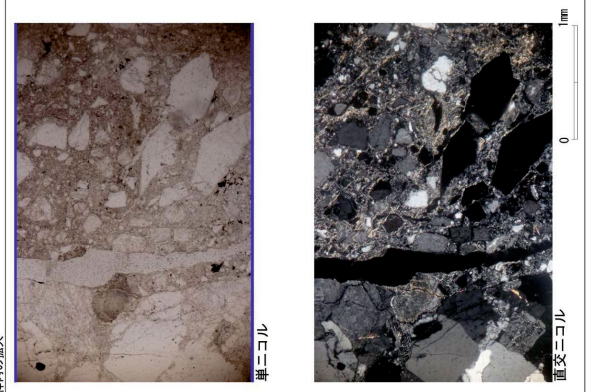
X: 条線方向 (下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向 (上運動を正とする)

赤枠内の拡大



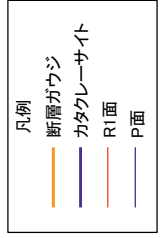
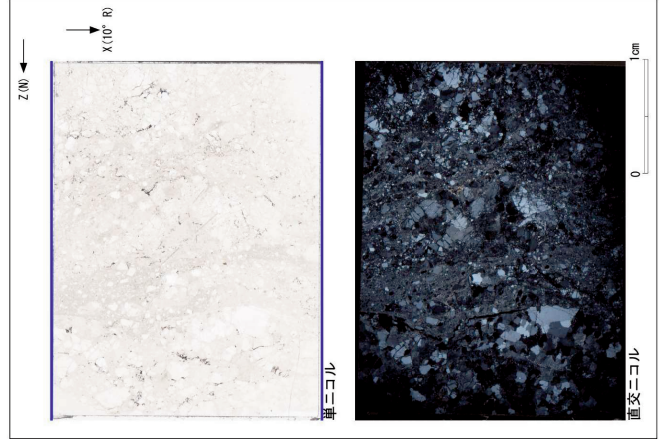
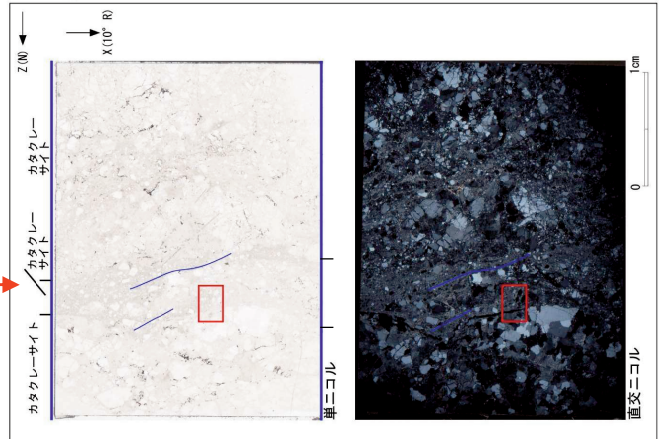
※切断面に記載されているXZ方向は誤り
ブロックサンプル

赤枠内の拡大



最新活動ゾーン

このゾーンは当初断層ガウジと
判断していたが、上記に示す通り
カタクレーサイトと判断した



第7.4.4.282図 (3) 破砕部性状 H27-B-2 深度35.36~35.46m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))